

# 令和5年度第1回生駒市環境マネジメントシステム推進会議

## 【議事要旨】

日時:令和5年8月24日(木) 14:00~15:00

場所:生駒市コミュニティセンター404 会議室

### 1. 配布資料

- ・ 資料1:生駒市環境マネジメントシステム運用方針
- ・ 資料2:取組状況調査まとめ
- ・ 資料3:エコオフィス取組状況調査結果

### 2. 出席者

区分	氏名
会長	矢田 千鶴子
委員	山口 昭夫
委員	松本 昌康
委員	梶邑 龍二
事務局	SDGs推進課長 金子 雅文 SDGs推進課課長補佐 木口 昌幸 SDGs推進課主幹 加納 明 SDGs推進課低炭素まちづくり推進係員 綿部 里菜

### 3. 議事録

1. 開会	
2. あいさつ	
3. 資料確認・訂正	
4. 案件	
(1)生駒市環境マネジメントシステムの運用について	
事務局	資料1について説明。
松本委員	3.計画目標の温室効果ガスの排出量について、2023年度目標数値が昨年度の運用方針に掲載されていた数値から変わっているの、変わった理由を伺いたい。また、排出量目標が変わったのであれば、1人あたりのCO2排出量もリンクして変わるのではないかと思うので、その説明もお願いしたい。
事務局	目標数値については改めて確認する。
松本委員	エコオフィスの数値目標について、「前年度比で増加させない」という消極的な目標としているが、もう少し前向きな目標設定をしてほしい。また、2030年度までに温室効果ガスを35%削減すると目標設定をしているが、現状の排出量から考えてどのように見通しを立てているか。
事務局	このペースでいくと達成は厳しいと思う。2030年度までに35%削減するには、逆算すると令和4年度までに15.8%減らさないといけないが、実際削減できているのは

	11.5%であるので、厳しい状況であると考えている。
松本委員	昨年度は資料2.3について評価シートを記入したが、今年度は事前にヒアリング対象部署を選定して、評価するという認識でよいか。
事務局	その通りである。
松本委員	昨年度は、評価シートを記入するにあたって詳細な情報を得るために市HPで検索したが、非常に時間がかかった。詳細な情報を得るための有効な手法はないのか。
事務局	昨年度はヒアリングを事務局が代行したが、今年度は直接担当課にヒアリングしていただくので、昨年度よりも詳細な情報が得られるのではないかと思う。
松本委員	エコオフィスの取組及び独自施策(参考)の具体的な取組の内容がずっと変わっていないので、更新するべきではないかと思う。例えばグリーン購入について、生駒市はグリーン購入についての規程がある自治体ではないので、この記載は修正・バージョンアップを図る必要がある。また、エコオフィス取組状況調査について、昨年度よりは改善されたが、アンケートの回答率はまだまだ低い。そもそもエコオフィスについて職員からの認知度が低いのではないかと思う。毎年異動などで職員の入れ替わりもあるかと思うので、しっかりと周知を図ってほしい。また、生駒市環境基本条例第24条で、環境マネジメントシステム推進会議の委員は35人以内とすると定めているが、現状の環境マネジメントシステム推進会議委員は5人である。委員数を増やすか、条例を改正するかのどちらかが必要である。
事務局	エコオフィスの認知度については、松本委員のご指摘のようにまだまだ認知度は高くないと感じている。アンケートについては、質問項目を精査して、質問数を少なくする等して回答率を上げるとともに、認知度も上がるような工夫をしていきたい。
松本委員	認知度を上げるためには職員に対するエコオフィスの研修等が必要である。
事務局	環境マネジメントシステム運用方針等は庁内LANで配布し、周知を図っている。
矢田会長	当初はエコオフィスの研修等を行っていたと思うが、今は庁内LANで閲覧するだけとなっている。仕組みづくりやエコオフィスの意識づけを再考していただきたい。
山口委員	私が最初にこの会議に参加した頃は、市役所内のことをメインにした会議であったが、今は市域全体の環境のことをテーマにした会議となってきており、規模が拡大している。規模が大きくなりすぎると市民がついていけなくなってしまう。力を入れる目標やテーマを端的に絞って、市民が理解しやすい働きかけをしてほしい。
矢田会長	運用方針の前文で、脱炭素先行地域について触れてはどうか。脱炭素という言葉が、市民にはまだ浸透していないと思う。これからのSDGs推進課は、環境モデル都市・SDGs未来都市に加え、脱炭素先行地域が業務の三本柱になると思う。
(2)環境関連計画等に基づく取組状況について	
事務局	資料2について説明。
矢田会長	ヒアリング先は、事務局がまず案として出し、それを委員と相談する場を設けていただいて選定するという認識でよいか。

事務局	その通りである。
松本委員	ヒアリングの際に、その所属が記入した令和4年度実績や令和5年度目標について、こちらの意見をもとに記載を修正していただく等は可能か。
事務局	現状このように記載されているが、こういった視点で記載してほしいというような形でご意見いただくのは可能であると思う。ただヒアリングを行う時期から考えると、現状の記載内容を修正するより、令和6年度調査の回答(令和5年度実績と令和6年度目標)を記載するときに反映してほしいという形の方がよいと思う。
矢田会長	BやCの評価を付けているのに、昨年度と同じ目標にしている所属がある。A評価でないならば改善策を目標に書かないといけないはず。
事務局	Bはできているの意味だが、CやDを付けているのに目標が昨年度と同じという部署については、改善が必要である。そういった部署をヒアリングの際に選んでいただくのもよいのではないかと思う。
(3)エコオフィス取組状況調査について	
事務局	資料3について説明。
矢田会長	指定管理施設の回答率は高いが、庁内の回答率が低いのは気になる。
事務局	アンケートの回答率については先ほど松本委員からもご意見をいただいたが、庁内で実施されている他のアンケートの回答率が2～3割程度である中で、エコオフィスのアンケートがこの回答率であることは評価していただけたらと思う。
矢田会長	アンケートで回答率が50%を超えるのは高い方だと思う。また回答数も554あるので、傾向としては正確なものが掴めているのではないかと思う。松本委員は何%程度を求めておられるのか。
松本委員	回答率としては80%以上を目指すべき。また、アンケート項目8の、会議はできるだけオンラインで行うという設問について、オンライン会議を行えるようなパソコンやプロジェクター等はどの程度整備されているのか。
事務局	コロナが流行した時に、オンライン会議ができるような端末や設備は整えられた。実際私たちが打合せはオンラインで行う機会が増えたので、今後も全体的にオンライン会議は増えていくと思う。
矢田会長	会議は、職員だけの庁内会議と、このような私たち市民のような庁外の人を交えて行う会議の2種類あると思うが、オンラインだとどうしてもタイムラグが発生してしまうことはあるので、対面とオンラインの使い分けは必要だと思う。また、アンケートについて、取り方に強弱をつけてはどうか。例えば偶数年はこのボリュームのアンケートを行い、奇数年は簡易版アンケートを行うなど。質問項目の精査と、アンケートの取り方に工夫をお願いしたい。また、このアンケート結果に対するSDGs推進課からの評価もしていただきたい。
(4)その他	
事務局	今後のスケジュールについて説明。

松本委員	生駒市環境基本条例第24条の委員数の件についてはどうなるのか。
事務局	環境マネジメントシステム推進会議のあり方については、今後検討する予定で、条例の規定を改正する必要があるれば委員の皆さまのご指摘も踏まえ、対応を考えていきたい。
梶邑委員	多様な目線の意見をもらえるように、幅広い年齢層や立場の方に委員になっていただくとよいのでは。
5.閉会	

以 上